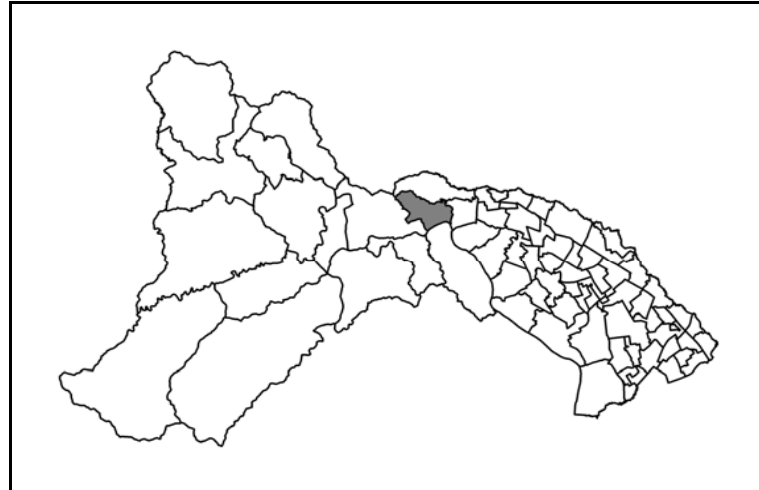


○地区を構成する町丁

【緑区】川尻、城山、谷ヶ原、中沢、若葉台

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

城山(自治会法人城山, 自治会法人谷ヶ原, 自治会法人中沢, 自治会法人若葉台)

○地区概況

旧城山町の西部を占める地区である。全体的に南側に傾斜しているが、南側に面する津久井湖沿いは平坦な台地である。ここは主に農地であるが、一部は宅地化が進んでいる。地区の西部は山地で、住宅は少ない。地区北部には、昭和50年代前半に造成された若葉台住宅がある。

○建物数・人口

建物	区分		建物(棟数)
	区分	棟数	
建物	木造(昭和55年以前)	699 棟	
	木造(昭和56年以降)	1,109 棟	
	非木造(昭和55年以前)	102 棟	
	非木造(昭和56年以降)	248 棟	
合計		2,158 棟	
人口	区分		人口(人)
	区分	人口	
人口	0~4歳	164 人	
	5~64歳	3,446 人	
	65歳以上	1,854 人	
	合計	5,464 人	

○所見

- ・地区内には2か所の避難所がある。
- ・若葉台団地は山沿いの複数の谷を埋めて造成されているため、大地震時には、よう壁の崩壊やブロック塀の倒壊、また、不同沈下や水道管被害のおそれがある。道路に被害が及ぶと災害対策に影響する可能性がある。
- ・富士山の大規模噴火時には2cm未満の降灰が予測されており、道路や鉄道の通行支障、停電などのおそれがある(風向きによってはより重大な被害のおそれもある)。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	県企業庁谷ヶ原浄水場
警察署	
消防署	
消防団詰所	谷ヶ原, 若葉台, 中沢, 都畑
病院等	
主な災害時要援護者施設	フルール・ガーデン相模原、合の家ケアステーション、サポート・ユ一・21介護支援センター
幼稚園、保育園	城山わかば幼稚園, 城山西部保育園
学校、大学	広陵小学校, 中沢中学校, 県立城山高等学校
避難所	中沢中学校, 広陵小学校
※洪水時避難所兼用	
洪水時避難所	
広域避難場所	県立城山高等学校・中沢中学校
防災備蓄倉庫	広陵小学校, 中沢中学校, 中沢中学校
※広域避難場所対応	
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

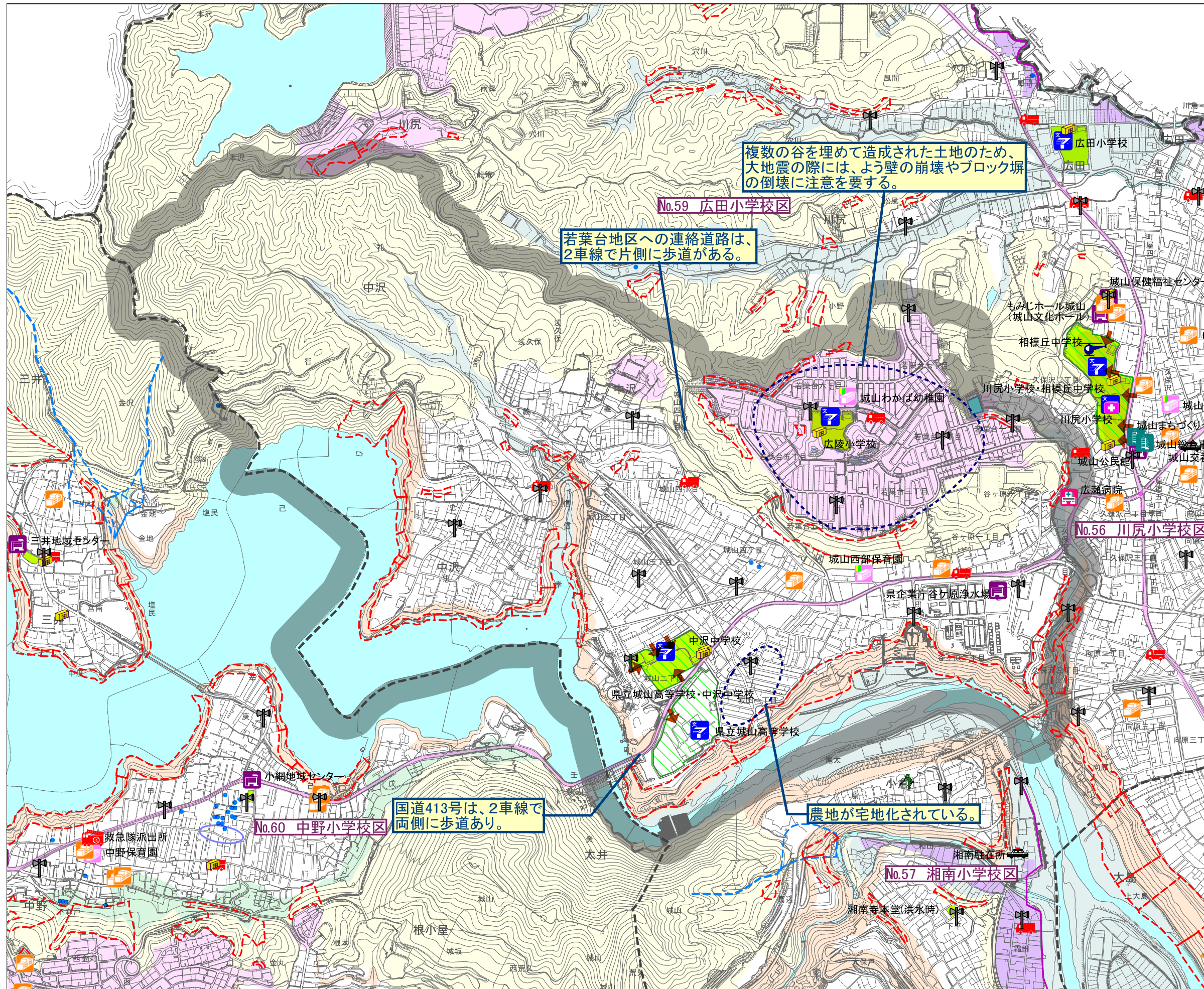
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	71 棟	3.3 %	75 棟	3.5 %	0 棟	0.0 %
建物焼失	4 棟	0.2 %	1 棟	0.1 %	0 棟	0.0 %
死者	5 人	0.1 %	5 人	0.1 %	0 人	0.0 %
閉込者	24 人	0.4 %	25 人	0.5 %	0 人	0.0 %
重傷者	6 人	0.1 %	6 人	0.1 %	0 人	0.0 %
軽傷者	48 人	0.9 %	50 人	0.9 %	4 人	0.1 %
避難所避難者(当日)	200 人	3.7 %	204 人	3.7 %	7 人	0.1 %
避難所避難者(1週間後)	480 人	8.8 %	488 人	8.9 %	70 人	1.3 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害	
地震による地盤災害	
地震による建物被害、火災	

○近年の主な災害履歴

平成16年10月 9日 土砂災害1箇所  
平成20年 8月28日 床下浸水2戸



凡 例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄


みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)

